

KKJインタビューのまとめーKKJを振り返ってそして今

佐藤綾子
(SFC研究所)

1. インタビューの目的

KKJは京都大学と慶應義塾大学井下研究会とが合同で、電子掲示板によるオンラインと2泊3日のオフラインによる合同ゼミの形で行われた。学生が自ら授業を作っていくというスタイルがとられたために、教師（スタッフ）による指示や介入はほとんどないものであり、必要な場合のみアドバイスするというものだった。

交流の始めは電子掲示板を使い自己紹介や授業の報告などが行われ、2泊3日の合宿に向けての話し合いやそれぞれの関心あることが投稿された。そして2泊3日の合宿では、学生自らが話したいテーマを決め、話し合いをするスタイル（小グループで話すか全員で話すのかなど）やスケジュールを決め、議論が行われた。またレクリエーションは各自自由に過ごすことになり、そのような時間が設けられた。そして合宿後は再び電子掲示板に戻り、合宿の感想や授業の報告などが行われた。合宿直後に書いてもらったアンケートでは、多くの人がKKJについて「よかった」としていた。しかし直後の感想文では「何かわからないけど楽しかった」、「言葉にするのは難しい」、「何かを得たと思うけど、それが分からず戸惑っている」、「よく分からなかった」などといった意見が多くみられた。そこで、合宿直後は言語化できない状態であったが、半年近く経った11月の時点でもう一度KKJを振り返ってもらうことにより、曖昧であったものを少しずつ明確化する場として、個人インタビューを行うことにした。

2. インタビューするにあたって

2.1 プレ・アンケートの実施

インタビューが行われる前により記憶をたどりやすくするために、アンケート配布し記入してもらった。

秋学期の井下研究会継続者に対して

日 時：1999年11月30日（火）

場 所：井下研究会

方 法：研究会の時間内に記入その場で回収

対象者：KKJ参加者9名（当日欠席者1名メールにて回答）

継続していない者に対して：

依頼日：1999年11月30日（火）

方 法：・アンケートを手渡しし回収箱へ

・メールにて記入して返信

対象者4名

2.2 アンケートの構成

アンケートの構成にあたって、合宿直後の感想で「よくわからないものだった」という意見が多かったこともあり、KKJを分割していきそれらの関連性などを考え、最後インタビュー対象者が自分なりにKKJをまとめていく作業をインタビューの場で行ってもらうことにした。よってインタビューを行う際用いる、プレ・アンケート自体その構成に従い、今現在、秋学期の研究会やプロジェクトなどの係わりを聞きながら徐々に、KKJと絡めて、KKJ自体の質問に入っていた。KKJを合宿、掲示板、掲示板と合宿の関係、KKJと研究会の関係、KKJと春学期の研究会全体について問うといった質問構成にした。（参考資料1）

A) 今現在に関する質問

- ・現在参加しているプロジェクトに関して
- ・現在のKKJ参加者との交流について
- ・秋学期の研究会と春の研究会の比較 など

B) KKJ合宿に関する質問

- ・印象に残っていること
- ・話されたテーマに関すること
- ・仲間意識について など

C) KKJ掲示板に関する質問

- ・発言に関すること
- ・掲示板のメリットとデメリット など

D) KKJ掲示板と合宿に関する質問

- ・合宿前と後での掲示板的の違い
- ・合宿と掲示板での感じ方の違い など

E) KKJと研究会の関係に関する質問

- ・研究会として参加したことでの井下研究会内部の影響 など

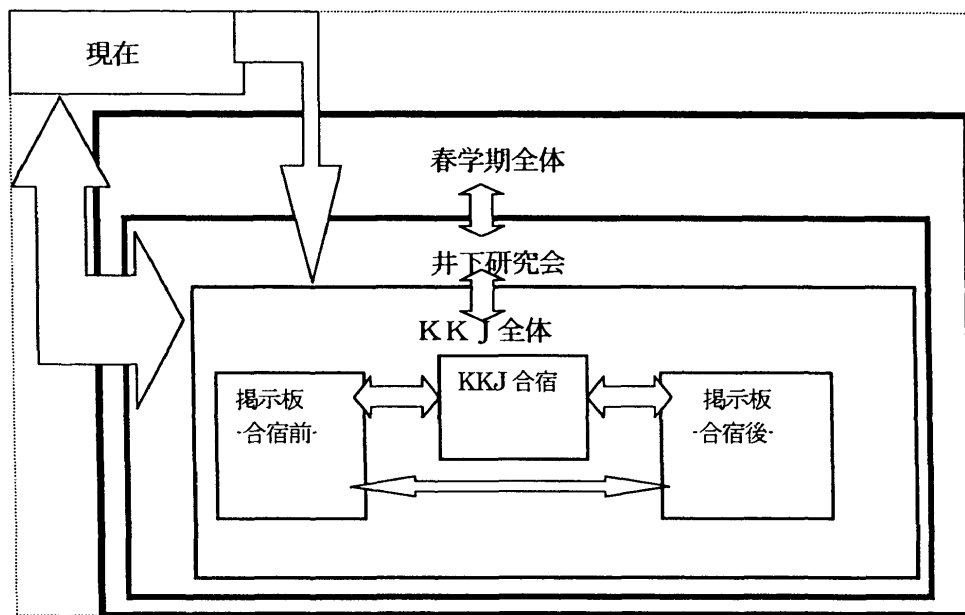
F) KKJだけでなく、春学期の研究会活動全体に関する質問

- ・研究会にコミットできたか
- ・KKJで学べたことと研究会で学べたことの関連性
- ・研究会で学べたこと など

G) 今後について

- ・今後挑戦してみたいこと
- ・次回のKKJに向けての提案

(最後スタッフに質問してみたいことがあったら記入してもらう欄を設けた)



3. インタビューの方法

3.1 インタビューの概要

インタビューの期間、場所、対象者、時間は下記のとおりである。インタビューは主に佐藤が行い、インタビュー実施回数10回の内4回が尾澤と佐藤2人で担当した。

期間：1999年12月3日（金）から12月17日（金）

場所：K308共同研究室

対象者：12名（内2名合同－2組）

KKJ参加者のうち2名は事情によりインタビューを行わなかった

時間：1時間半から2時間程度

3.2 インタビューにおける録画ビデオと写真の活用

インタビューの際、語ってもらう時の素材としてビデオと写真を用いた。写真はKKJ合宿の時のもので、合宿から少なくとも6ヶ月は経っているので思い出す作業に役立つと思われた。ビデオは合宿の際、最後のセッションで、インタビューを受ける人の「ひとり一言の場面」を用意した。その時「どのように感じながら話したのか」そしてそれを「今見てどう思うか」を聞いていった。

3.3 インタビュー最後のまとめの作業

インタビューの最後で、「KKJを誰も知らないひとに説明するとしたら、なんて言いますか。自分の表現で答えてください」という投影法的手法の質問形式を用いた質問をした。インタビューで語ってきたことをもう一度、統合する時間をとることにした。その際あくまでも、自分の表現で自由にまとめてもらった。

3.4 インタビューを行う際の留意点

まずインタビューを行う際注意した点は、彼らの体験や感じ方が否定的なものであっても、肯定的なものであっても、インタビュアーは共感的に理解することにつとめた。感想文からも「ここるところがぎゅーんと触れ合う感じ」、「パニックに陥った」、「不安や自己批判」という言葉が書かれていて、個々にとって自分の内面に触れる体験をしている場であったことは推測できた。逆に「あとから振り返って、結局なんだったのか」といった感想も多くあり、曖昧さが残り、消化できない状態が続き、曖昧さゆえに不満として残っている部分が見られたのでそれらの部分を丁寧に聞くと同時に、KKJの体験をその場限りで終わらせるのではなく、より継続性を持たせることを心がけ、「KKJが行われていたその時はどうだったのか」、「今はどう思うか」といった具合に聞いていった。そして、それらの体験を「今にいかせるものではないのか」という点に気を配りながら質問をしていった。例えば「KKJでの話し合いは、あの場だったからこそできた」という発言が出たとしたら、「今の研究会ではできないものなのか」、「なぜできないのか」などKKJでの体験を素材にしながら、個々のものの接し方や考え方のパターンを考える場になるよう心がけた。

3.5 インタビューの分析のポイント

先に述べたように、KKJ合宿は個々にとって内面に触れる体験でもあった。また目標や目的を与えたものでなく、自由であり、学生が自らつくっていく場であったために、ほとんど教師（スタッフ）の介入がないものであった。環境面からいっても、リゾート地であり、日常生活とは違う空間でリラックスした雰囲気での話し合いができる場であり、またそこでは2つの大学間を通して、お互いのグループまたは個人として新しい出会いの場であった。そのような意味で、非構成化されたエンカウンターグループと似ている部分があった。さまざまなところで、エンカウターの応用として、治療目的でなく、教育の現場でも多く用いられているのが見受けられる。KKJにおいて、実際にインタビューからも、「よく生きる」というテーマで話し合いをしている時「話していた人や聞いていた人が涙ぐんでいた」といった話がでた。エンカウンターグループに近いことが起きたことがわかった。それらの内面に触れる体験ができる場も貴重であり、重要でありKKJも個々にとって深い体験ができる場として成しえたことはスタッフ側にとっても発見であった。しかし研究会や授業の一環で行われたものであり、教育の現場や授業そのような要素を導入した時に大切なことは、「感情と知的洞察力のバランス」ではないかと思われる。また「個人としての体験とグループや他者に対しての体験のバランス」が重要でないかと思われた。また体験で学んだことや感じたことがどれくらい持続性があるものなのかという点も重要であると思われる。エンカウンターグループではよく、「その場限りの体験で終わってしまう」と言われる。それらの体験をより持続性を持たせるためには、準備段階からの関係作りと継続的なサポートが必要だと思われる。KKJでは、合宿での体験学習と準備段階からの関係づくりと継続的なサポートとをつなぐものとして電子掲示板があり、より継続的な体験となるための重要な役割を果たしているのではないかと思われ、またこれから、そのような活用の仕方が可能なのではないかと思われる。そこで、インタビューでは「合宿だけだったらどうだったか」、「掲示板だけだったらどうか」という質問をしそれらの可能性を探ることにした。

4. インタビュー結果から

4.1 インタビュー結果のまとめ方

インタビューで語られたものを、表4.1のように個人個人の発言ごとにまとめてみた。個人個人のまとめは、掲

載に同意してもらった人のものを資料として別紙につけておいた。(参考資料2) また、慶應義塾側参加者の発言を統合したものとして、表4.2のようにまとめた。(参考資料3) 学びには「学べたこと」と同時に「学べなかったこと」も含まれている。またインタビューの中で本人にとって学びだと思われたものも入れている。

感情		掲示板 (合宿前)	合宿	掲示板 (合宿後)	研究会	現在
	KKJ					
	グループ又は他者					
	個人					
	KKJ全体					
学び	KKJ					
	グループ又は他者					
	個人					
	KKJ全体					

〈表4.1〉

感情	掲示板	KKJ	※発言内容から分類	・(発言) ・(発言)
学び	掲示板	KKJ	コミュニケーション 共同作業	・(発言) ・(発言)

〈表4.2〉

4.2 インタビューのまとめから

インタビューのまとめから多く語られた発言を挙げてみた。

発言1：「KKJにたいして目的がわからなかった」

「KKJにたいして目的がわからなかった」、「不安感」、「戸惑い」などが語られた。

発言1：の考察

非構造化されたエンカウンターグループの初期段階の不安に似た体験だと思われる。その不安感は時としてファシリテータに向かい、ファシリテータは何をしているのかということになることがよく見られる。KKJでも、目的も与えられなかったために、目的が曖昧である不安感が初期の段階からみられ、それが最後まで継続してしまった人もいた。「先生は何を考えているのか」と言った意見や「意図は何か」という意見が多かった。合宿の場で学生がテーマごとに分かれて、議論をしているところに教師(スタッフ)が介入せずに、見ていたために「観察されているという意識」を感じさせてしまうひともいた。

慶應義塾側では学生達は日頃コンピュータに多く接している。それだけにコンピュータを利用した交流で、誤解された経験や誤解した経験を聞いたり、体験したりしている。またメールなどを利用する際に、簡潔に書くなど作法的ことを日頃注意している分、電子掲示板での交流では、「抵抗感がある」、「誤解されるのがいやだ」、「深い話はできない」という発言が多くあった。また合宿やグループワークなどを日頃から多く行っているために、京都大側が目的として持っていた「合宿をつくっていく」ということに、目的を定めることもできないでいたように思われる。KKJの掲示板と合宿を使った合同ゼミは井下研究会にとって初の試みであった。しかし要素をとってみると、日頃から接しているものであるために、様々な視点で見れるものであったが、逆に要素がたくさんあったために、どこに自分自身の視点をもっていか曖昧になってしまったのではないかとと思われる。また何も目的が言われなかったために、先生の視点はどこにあったのか気になってしまったのだと思われる。

発言2：「枠があった」、「上から与えられたもの」

KKJについての発言や、アンケートの「最後に、みなさんの方からスタッフに質問してみたいということがありましたら、お書きください」という部分で多く語られた。

発言2の考察：スタッフとしても初の試みであったため、途中で任意の参加から研究会全員で参加という方向を変えた経緯もあり、学生側に気持ちの上で混乱を招いたこともあった。スタッフ側としても、明確な目標があってそれを学んで欲しいというものでなく、自由に行って欲しいと考えていたが、そのような行き違いから、「枠があった」、「上から与えられたもの」という意識があったのだと思われる。スタッフ側で、枠はどこまで決めるべきなのか、どこから学生に任せるのかは予め十分考慮する必要があった。しかしながら、「学生主体で自由に学んで欲しい」というものでありながら、学生側は「枠があった」と感じるところで、スタッフ側と学生側共に自由であることの難しさを感じるものであるとともに、学生はまだ自分から学ぶというよりは与えられるのを待つという姿勢を伺わせるものであった。

発言3：「井下研のアイデンティティが難しくなる」

井下研究室として参加しているので、「井下研のアイデンティティが難しくなる」、「ホームグラウンドが無い前に合宿にいったので、どうしていいものか」といった意見が研究会に入って間もない3年生から出てきた。

発言3の考察：

慶應義塾側は、KKJに研究会として参加したのだが、インタビューにおける発言の中で京都大学の人に関して語られたことが非常に多かった。印象に残った発言を尋ねると、京都大学の方の発言が多く、仲間意識に関してもKKJを通じて、井下研究会としての団結力や仲間意識を強めるというよりは、むしろ京大側もしくは京大の個人に目が向けられた。4年生は井下研究会として既に、ある程度の基盤ができているが、3年生にとっては研究会に入っただけであり戸惑いもあったのだと思われる。

発言1. 2. 3を通じて

研究会として参加する以上は、次回のKKJにおいては、適度なインストラクションを与え、導入部分は気をつける必要があるように思われた。それらを十分行ってこそ、学生自身が自由に安心して、KKJに参加できるのだと思われる。適度なインストラクションなしには、かえって意図があったと思われ、彼らに不安感を与えてしまう。

4.3 インタビューからみた個人

KKJの体験は、感じたことや、気付いたこと、考えたことを、行動や意識などに現れている人もいれば、留まってしまう人もいる。以下の表は表4.1から個々の変化の一部を表したものである。参加者を合宿前の掲示板の頃、合宿、合宿後の掲示板、現在と水平軸を追って簡単にまとめた。（プライバシーの保護のため発言の一部を変えている。）

1. 現在なら意味付けができると考えた人（3年女）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・ 掲示板での議論に抵抗感 ・ かやの外にいる感じ	・ 井下研としてのホームグラウンドがないまま、新しい人との交流があり戸惑った ・ KKJの目的は何なのかずっと考えていた	・ かやの外にいる感じを最後まで、貫いた	・ 今なら意味付けはできる掲げられた目標でなく、納得いく目標で ・ 次回のKKJでは、経験者と未経験者が交るかもしれないが、交ってもアドバイスを経験者にしておいてあげられてよいと思う

2. 自分のスタイルでKKJに参加した人（4年女）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・ 最初からプロジェクトに参加したわけでないので口が挟めない。核心に触れず存在感だけ残す ・ 個性を知ってもらう	・ 言葉の問題で戸惑いがあった ・ 京大の人が本気で話し合いの場でつつこんでくれたのでうれしかった ・ 本音で話したから、泣いているひともいたのだろう ・ 途中で帰らなければならぬので、どうせ参加するなら打ち上げ花火	・ 途中で帰ってしまったので、口が挟めない。みんなが共有している何かは大きい ・ ビデオなどで、後でみたところで、キャッチアップできない。余計悲しくなる	・ KKJはあいのりに似ている。全く知らないよくわからないけど、同じバスに乗って、どっかに向けて旅をしている。目的自体も分からないけど、お互いのことを理解しようとしている。共同作業通じて

3. 自分なりのテーマを持って参加した人（2年女）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・ 抵抗感があった ・ 相手もこちらも身構えていた	・ 気持ち的に熱かった ・ 最初は異文化交流がテーマだったが意識しなくなった ・ 京大の人と同じテンションになっていて、いつもの自分と違っていた	・ 掲示板に対するおっくう感はなくなった ・ チャットルームなどを積極的に使った	・ 今思うと自分の姿が信じられない ・ アメリカに留学した時、台湾人と友達になった感覚に似ている ・ 学んだという意識はない。KKJは関西の文化に触れる体験だった

4. 合宿後研究会について話合った人（3年男）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・ 興味と義務感 ・ KKJは上から与えられた	・ 何かかたちにしてやろうそこから得てやろうという意識があった ・ 京大の人に自分に近いものを感じる	・ 井下研究会内部の相談を京大の人にしたり、京大の人との交流が続く ・ 井下研として中が固まる前に他のグループと交流したことで、井下研のアイデンティティが難しくなると感じた	・ KKJに関してある程度ガイドが必要 ・ なんでそこまで片意地張って頑張らなきゃいけないのかと今思う ・ 今でもあまりよくわからない

5. 自分を変えてしまうほど影響がない人（4年女）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・目標が見えなかった ・合宿さえ参加すればいいと思っていた	・関東と関西の違いについて話した ・ほけとつつこみのコミュニケーションに苦労した ・実験台にされた	・掲示板をあまり使っていないので、あってもなくても変わらない	・KKJはよくわからないものだから、他の人も戸惑っちゃったのではないかな ・KKJが自分を変えてしまうような影響はない ・KKJに力を入れてなかったのに、合宿後の最後の一言にもっともらしいこと言っている ・いろんな人と仲良くなったことが一番

6. KKJの経験が心に残った人（3年女）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・関心があるわけではなかった ・KKJのカテゴリーに掲示板が含まれていると思わない	・本当にこころとこころの触れ合いを感じた ・自分の心がどう動いたか表現しようとしている時 ・KKJの場が伝いたいと思えた場。深い話をしてもいいのだよという場	・掲示板が合宿の後の方が暖かみをもってきた	・KKJでの体験は日常性格で忘れちゃう。普段は出そうと思わないし、語ろうと思わない ・KKJは学んだというよりは心に残った

7. いまだ未消化の人（4年女）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・目的がわからなかった ・場を与えられてやりなさいという感じがした	・発言しないことに疎外感があった ・グループに分かれ、話し合いが終わりそのグループも解散すると仲間意識も崩壊する感じがする ・京大の人の話で、「発言しない人を殺すのではなく、聞く努力をしなければならない」という言葉に「そおゆう考えもあるのか」と気付きを得る	・合宿で話した人とは話す ・交流もしだいに途絶えてしまった	・いまだにKKJはなんだったのかよくわからない ・翻弄された ・目標がわかんなかったから話題にしたくない

8. 現在の行動にKKJの経験をいかしている人（4年男）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・運営者のひとりという自覚のもとに、KKJをつくっていく意識があった ・話の乗っかるというよりは提案する	・運営に手一杯だった ・京大の一步ひいてみて、いる人と話しをして、引いて見れなくてショック ・予想をたてた範囲内で枠から出てない、わくわくとか面白みとがなく、合宿がうまくいった安堵感があった	・京大の人との交流は続く	・授業で、自分がひっぱっていかず、運営とかしよこまず、いろいろな人に任せてみて、その人たちの成長のために自分はどうしたらいいのか。グループ全体でどうしたらいいのかを考えて行動するようになった

9. 内面の継続性のある変化あった人（4年男）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・掲示板があることで確かにやっている感じはした ・論理的に書く、考えをまとめないといけないと思っていた	・就職活動でずっとしてきた話し方に奔走していた ・内面の話ができなかった ・京大と慶応の違いばかりにこだわった ・自分でいいと思っていたことが、壊されたがいい気づきの場だった	・合宿後の掲示板での交流はあまりしていない	・現在参加しているプロジェクトで内面の話をして、みんなを理解でき、自分も表現できたとき、KKJでみんなこうゆう感じだったのかなと感じいいと思った

10. 研究会を変えた人-1（3年女）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・もともと合宿などに興味があり全力で頑張った ・議論になっていたらとりあえず何か書くようにした	・言葉の問題で戸惑いがあった ・KKJにおける合宿や掲示板の位置付けや関連などについて自分なりの考えをもっていた ・プレッシャーになっている部分に触れられ、限界にきてしまった	・「合宿楽しかったね。」のメールで終わったことは残念 ・以前から思っていたことや、京大からの刺激があり、研究会と自分や周りについて考えた。これから自分のいいところを伸ばしたい	・新しい研究会で自分を生かせる ・井下研で学べるものは今は保留にしておく

11. 研究会を変えた人-2（3年女）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・KKJは上から与えられたもの ・KKJに対して漠然とした不安感があった	・当たり前と思っていたことが京大の人と出会い当たり前でないことに気付く。これからどうしよう	・自分の方向性について考え、研究会を変えることにする	・今なら研究会とKKJを関連付けることができる ・KKJはよい経験だった

12. 誕生会をしてもらった人（3年男）

掲示板	合宿	掲示板	現在
・興味ある存在でなかった ・メールに抵抗感があった	・発言が認められなかったらという不安を持ちながらも話す努力をした ・誕生会をしてもらったことで一体感を得る体験をした。 ・誕生会をしてもらって話せようになった	・他人にとっては合宿後の掲示板は有用。自分は利用していない	・みんなにプラスになったので人に何かしてあげたい ・人前で発言するのが苦じゃなくなった

5. KKJの体験を継続性のあるものにするために

5.1 インタビューの場の活用

今回のKKJが個人の内面に触れる場となった人もいたことは、インタビューからも明らかになった。今後KKJを行う際も、その可能性があるものとして十分考慮する必要がある。インタビューでも、「議論として相手の意見に対して考えを述べる場であったとしても、その意見が否定されたら、自分自身に対して否定された気分を味わってしまう」という発言もあった。そのインタビュー後、「話せてよかったです。楽しかったです。」と言っていた。そのように感じてしまった否定感を和らげる場として、またKKJでの体験をその後の行動や意識や感情面において、継続性や変化もたせる場としてインタビュー自体もプログラムの一環に考えKKJとするとよいのではないと思われる。

5.2 継続性をもたせるための掲示板の利用

先に述べたように、KKJでの体験を継続させるために、掲示板の存在は有効でないと考えていた。確かにインタビューからも合宿後の掲示板では、「連絡をとりたい」、「掲示板がなかったら交流がなかった」という意見があり、交流という意味では有効であったと思われる。合宿後投稿件数も増え、「掲示板に対する抵抗感がなくなった」という意見があげられた。しかし、「合宿の掲示板では後で議論を続けようというようなものではない」、「楽しかったねのメールが盛り上がったが、後に続かなくて残念だった」という意見もあり、KKJの体験をその後にいかす場として十分だったとは言えない側面があった。初期の段階では、慶應義塾側の人が「京大の掲示板に書き込みにくい」、「全然知らない人だから、違う風にとられたら怖い」という意見が多くあった。その対応策として「共通課題は、あえて強制的にしかも同じ課題ですとみえてくるものがあるかもしれない」という意見もあった。掲示板に共通課題という欄があったのだが、この部分は今回実際利用されなかった。初期の段階で多くの人が抵抗感があるようなので、導入として共通課題を与えてみるというのも、検討をしてみる余地があると思われる。

5.3 プログラムされない共通課題の重要性

掲示板において、「共通課題を与えてみるということを検討する必要性」を書いたが、合宿において、偶然の共通課題がありその結果「一体感を得た」という意見や、「京大の勢いに飲まれていたのに、意見を尊重してくれた」、

「誕生会が印象に残った」という意見が多くインタビューで聞かれた。偶然の共通課題とは、2日目の夜、当日誕生日の慶應義塾側3年の男子に対して、誕生会をどのようにするかということを、本人には気付かれないように京都大学側と慶應義塾側とが一緒になって決めるというものだった。合宿で自然とそのような雰囲気を作られていったのだが、プログラムとして組まれたものでない、偶然の共通課題の重要性も強く感じさせるものであった。

6. まとめ

KKJの体験型の授業は初の試みであり、検討を要する部分はあったが、その部分は検討するとしても、合宿での体験に対する感じ方や考え方はその体験した個人の特徴をよく表していたように思われた。それだけに、その体験は良くも悪くも本人の心のどこかに残るように思われた。体験型の授業の経験を“その場限りで終わる”のではなく、より個人の成長に広がりを見せるものとして、KKJにおいては掲示板の存在が有効であるのでは思われたが、実際はまだ十分活用しきれていなかった。合宿前の導入の頃「KKJをやっている気がした」であるとか、「きっかけづくり」になったとか、「掲示板があってよかった」という意見も多くあるので、利用の仕方を検討すればもっと有効に活用できるのではないかとと思われる。今回は合宿後の掲示板はあまり利用されず、その場限りで終わった人も見られた。掲示板で継続性を持たせることが難しかった分、インタビューでは、「その時どう感じたか」、「今どう思うか」、「いかせるものではないのか」を心がけて聞いていった。インタビュー後さらに、個々に広がり持つことを期待している。また学生が個人の中でその広がりを持たせるためには、「KKJで感じられたこと」、「感じられなかったこと」、「学べたこと」、「学べなかったこと」を、応用する場が必要であるように思われた。慶應義塾側では研究会として参加したため、今なお新メンバーを加えながらも井下研究会は存続している。また、井下研究会の任意参加の新しいプロジェクトの存在もある。個々の意識の持ち方で、KKJと全く同じスタイルでない、応用の場としての研究会やプロジェクトを活用できるのではないかとと思われる。その応用の場がKKJの後もあることの重要性を考える必要があるように思われた。

参考資料1

KKJインタビュー・ブレアンケート

実施日：11月30日（火）

場所：井下研究室

'99年春学期に行われたKKJについて12月の上旬にインタビューを行います。

それに先だって、いくつか質問しますのでご回答よろしくお願いします。

当てはまるものに○を（ ）には自由に記述してください。

学年（ ） 年）氏名（ ）

A) 今現在について質問します。

1. 今、参加しているプロジェクトはありますか。あると答えた人はそれはなんというプロジェクトですか。その名前をお答えください。

①ない [質問A3へ] ②ある（ ）

2. そのプロジェクトとKKJにおいての係わり方に違いがありますか。

（ ）

3. KKJを思い出し話題にする時はありますか。どんなときですか。

（ ）

4. '99年秋の研究会と春の研究会の進め方に違いがありますか。

（ ）

5. 個人的にKKJに参加した京都大学の学生やスタッフとの交流はありますか。

①ない ②ある

B) KKJ合宿についてお聞きします。

1. 一番印象に残っていることはなんですか。

（ ）

2. 自分の話したことで、印象に残っていることはありますか。

（ ）

3. 他の人が話したことで、印象に残っていることはありますか。

（ ）

4. 話されたテーマは覚えていますか。そのテーマは何ですか。

①覚えてない ②覚えている（ ）

5. 仲間意識はありましたか。

①ない ②ある

C) KKJ電子掲示板についてお聞きします。

1. どのくらいの頻度で見にいきましたか。

①よく見た ②たまに見た ③あまり見なかった ④全然みなかった

2. 発言はどういう時に行いましたか。

（ ）

3. 掲示板を使ったことのメリットとデメリットはなんですか。

メリット（ ）

デメリット（ ）

4. 掲示板上で交流の場が確保されたことで、KKJプロジェクトにに参加している感じがしましたか。

①強く感じた ②やや感じた ③あまり感じなかった ④全然感じなかった

D) KKJ掲示板と合宿の関係について質問します。

1. 掲示板での交流の場が確保されたことで合宿前、合宿後でメリットがありましたか。

合宿前 ()

合宿後 ()

2. 掲示板の交流がなかった場合とあった場合で違いがあったと思いますか。

()

3. 掲示板での意見交換と合宿での意見交換をしている時に違いを感じましたか。

()

E) KKJと研究会との関係についてお聞きます。

1. 春学期に研究会としてKKJに参加したことでどんな影響があったと思いますか。

()

2. 通常の研究会の展開において、inokenではオンラインによる交流がありますがそれについてどう感じましたか。京大との間とで違いはありましたか。

研究会 ()

京大間との差 ()

F) KKJだけでなく、春学期の研究会活動全体についてお聞きます。

1. 研究会活動に充分コミットできましたか。その理由はなんですか。

①とてもできた②まあまあできた③あまりできなかった④全然できなかった

理由： ()

2. 研究会活動を通じて学べたことはなんですか。

()

G) 今後について

1. これからの研究会活動において挑戦してみたいことや希望はありますか。

()

2. 次回KKJが行われる時こうした方がいいといった意見はありますか。

()

以上ありがとうございました。

最後に、みなさんの方からスタッフに質問してみたいということがありましたら、お書きください。

()

参考資料 2		掲示板（前）	合宿	掲示板（後）	研究会	現在
感情	KJJ	・ 別々の掲示板だったので相互交流ができなかった				
	グループ 又は他者		・ あまり感情を出さない人が、ある人の個人的な話を受けて、自分の弱い部分を表面に出せるのがよかった ・ 運営していく人に仲間意識があり、4年生として、合宿を通じてみんなに成長してもらいたいという思いが共通していた		・ より多くの人と交流が持てたということは良かったけど、研究会同士の短い太いパイプがなかった ・ 3年生の間で信頼感がなかった	
	個人	・ 顔を知らない人の行動を報告されてもコミットできない ・ 誤解されるのがこわい	・ 引いて見ることができなくてショック 実際動かすことで精一杯。表面的な反応と結果だけ注目して運営に追われてしまったかな。予想をたてて、そこで出た結果も範囲内であって、枠から出てない。発見や面白み、わくわくが無く安堵感。			・ 最後の一言を見て、最初から予想されたことを合宿の中で起きた出来ごとを使って、こう埋めあわせるだけで、予想されたとうり良かったね納得みたいな感じだったかな。この時うまくまとめようみたいな感じ。自分の目的意識に落としたかった。発表の仕方も皆のお手本に
	KJJ全体					
学び	KJJ	・ 共通課題はあえて強制的に同じものをすると思えてくるものがあるかも。 ・ WEBではひとつのページがあって様子が分かり、それも併せて合宿があるのだ。 ・ 合宿のプログラムを作る場 ・ 決定まで時間がかかった	・ 合宿のイメージが自分の中でできていた最初は名刺交換から始まって、しゃべりづらから小グループ、そしてチェンジ最後は輪になってしめたい。枠を作る作業はしよう。みんなの意見をそこそこ入れたがなかなかくずさなかった ・ 議論として、理論的でなく、自分の場合という話ができ	・ 掲示板だけなら嘯み合わずにいくのだから。合宿があったからこそ、交差する。結局離れていくけど、交差することによって、微妙にづれる。 ・ 合宿後の期間が短かったのであまり、使われなかった		
	グループ 又は他者	・ 京大の人は思ったことをぱっぱと書く	・ 京大の人のメタの視点。研究として見ていた話し合いには実際に参加せずに、話し合いの過程とか、発言をチェックしながら、その場というのが京大の人にどう影響を与えたのか ・ 掲示板に出なかった人が面白かった	・ チャットができてお互いの交流が促進された		・ 最近になって、違いばかり言っていたけど、本当は一緒じゃないかということを感じ出した ・ 最後の言葉で、井下研は体験から、今後の行動の見本にと言っていたができていたのか。
	個人	・ 掲示板があったらこんなに便利というものを提案したかった ・ 話に乗っかるというよりは提案する ・ 深い話は無理	・ 掲示板では連絡しか話せなかったので、深い話ができなかった ・ 慶応と京大と違うものがぶつかることで、気づきがあって、いいものが生まれるんだろうなという固定観念があって、結局最後まで、それを貫き、合宿はそれを補強			・ 現在履修している授業で、自分が引っ張っていくのではなく、運営とかしよこまず、いろいろな人に任せてみる。その人たちが成長するには自分はどうしたらいいのか。組織系の授業を多く取っている。誰かが引っ張っていくのではなく、グループ全体でどうしたらいいのか
	KJJ全体	・ 責任者でもありつつ学生参加者でもある。運営の一部であるのも勉強になる。 ・ KKJをまとめると、「SFCの付き合いとはまた違った世界が作れるだろうし、いろいろな人とつながることはあるかもしれないけど、自分自身で努力をしなければ楽しいコンパで終わる		・ 目標意識は、京大と慶応の違いを明確化し、自分を見つめたりとか、自分ってこうなんだよなって知る。		

〈参考資料3〉

感情	掲示板	KKJ	コミュニケーション	・ 別々の掲示板だったので相互交流ができない
			共同作業	・ 双方のコミュニケーションがしづらい ・ コミットしろという暗黙の了解があった。無言の圧力
学び	掲示板	KKJ	コミュニケーション	・ 初対面の人にどう切り込んでいくのだろうかというのがあるのできっかけ作りになる ・ 合宿で会うのが前提なので発言も変わる ・ 相手についての基本的知識を得る場 ・ あまり親しくない友達と交わすような会話。親しい人なら深い話はある ・ 京大が盛り上がっていてもSFCが入っていないところがあったがうまくいってところはキャッチボールが できている ・ メールだと人が変わるひとがいる（一般的に） ・ メールだと誤解を招くし、言葉で言えばいいことを、メールで言う人がある ・ 遠くにいてひとと連絡はとれる
			共同作業	・ つっこんだ話はできない場 ・ 離れていてもある程度議論はできた ・ 共通課題をお互いで活かす ・ 企画の段階で分業だった。オンラインで内容を作るのは無理 ・ 共通課題はあえて強制的に同じものを見ると見えてくるものがあるかも
			時間	・ 距離時間を超えるメリットがある ・ 時間差があり議論は難しい ・ 時差がある ・ 決定まで時間がかかった
			掲示板	・ 掲示板は文字として認識 ・ KKJのカテゴリーの中に、掲示板はない ・ 掲示板がみんなにとって興味ある存在でなかった。強制的にみせる時間があってもよかったかも ・ 公式な意見重要な意見の区別しづらい。事前ののとりきめが必要。決定をどうするか
			掲示板と合宿	・ WEBではひとつのページがあって様子が分かり、それも併せて合宿があるのだ ・ 合宿のプログラムを作る場

感情	掲示板	グループ 又は他者	京大の人	・京大の一部の人に抵抗感があった（会ったら違っていた） ・SFC対慶応という感じがした ・相手もこっちも身構えていた ・合宿で会って掲示板とのギャップがあって面白かった ・相手が本気で言っているのか分からない
			井下研の人	・4年生はKKJをやることに対して不信感がない。聞いたが不安がきれいに片付けられた ・何で合宿をやるのかなどのお話あいをしたら、頑張っている人のやる気をそぐ ・目的を話あって合宿に行く、それを言いづらい雰囲気があった
			全体	・投稿していな人は引け目を感じていたのではないか ・限られたメンバーが発言していた
学び	掲示板	グループ 又は他者	京大の人	・京大の人は掲示板とメールの差を分かってない ・京大の人たちは、自分の思ったことを気にせずに言っている ・掲示板に書き込まなかった人は、何を考えているのか分からない
			井下研の人	・ゼミの時間以外KKJについて話さない ・発言をたくさんしてる人は、KKJをなんでやるのかどれだけコミットすればいいのかよく分かってるひとたち
			全体	・連絡係りには有効だけど、すぐに連絡はとれない。誤解が生じたこともあるようだ ・議論に残される人、発言したが、誰もものってこない人がいた ・かんばる人同士のコミュニケーション

感情	掲示板 (合宿前)	個人	コミュニケーション	・ 一体感がない・反応を返してくれない・全然知らない人に違う風にとらえられたらこわい・話が續かない。疲れる ・ お互いの想像があつてよかった・掲示板だけの友達でなく、会う前で戸惑い・途中から発言するのは苦手 ・ 掲示板は、独り言のよう・自分に分からない話だと、京大の人に論破される
			参加意識	・ 最初からプロジェクトを作ってきたわけでないの、口は挟めない。核心にふれずに、存在感を残す 自分の意見というよりは個性を知ってもらいたい ・ 気が付いたら始まった。入るすきがなかった。研究会に入って慣れるまでにいっぱいいっぱい 時にプロジェクトが始まっていたので、どうしていいのやら ・ 自分自身のテーマはなかったが参加してる感じがした・やってることの興味と義務感・参加してる感じがしない ・ 最初は無理をしていたが、やらなきゃKKJは動かない。かかわっていかなく損 ・ 慶応対京大という意識はなかった・積極的に動こうとは思わなかった ・ 参加してる感じがした。何かが始まった ・ 合宿前あまり見てなかったの、未読がたまつてて見ると落ち込みそう ・ KKJは上から与えられたものだから、掲示板で話すことで参加してる感じがした ・ 自分のいることの証明・キャラクター出し
			掲示板	・ 顔を知らない人の行動を報告されてもコミットできない・投稿するのに壁がある書いたら失礼になるかも ・ めんどくさい・抵抗感がある・入りづらい・文章書くのが苦手・掲示板があることで、気心が知れた ・ 合宿直前に見始めたので、もっと前に見ておけばよかった ・ 知っている人にもメール書くのが大変なのに、知らない人に対して書くのはいや。 ・ みなきゃというのでもなかった・メールを送るときはたくさんかかなく気が済まない ・ 掲示板があることで確かにやっている感じがした・就職活動のホームページを見る感覚で見た ・ 発言する抵抗感はなかった・掲示板を見ないと議論についていけない
学び	掲示板 (合宿前)	個人	コミュニケーション	・ 自己紹介止まり・合宿前に一体感ができているのが理想なんだろう・情報として知リたかった ・ 相手がどういう状態で見ているかわからないのでつつこんでかけない・相手を知る手助けにはなつた ・ キャラクターが分からなかったの、でどういう風に投げていいのかわからなかった ・ 普段もメールなどは1, 2行で済ませる・盛りあがっている時は、流れがあり入りづらい ・ ある程度相手のことが分かつた
			議論	・ 論理的に書かなきゃいけない。考えをまとめる・議論になっていたら、できるだけ書く・深い話は無理 ・ 話に乗っかるというよりは提案する・いわゆるおしゃべりには参加しなかつた ・ 議論を作つていかなく意識があつた・自分の意見を通すよりは、聞くのに重きをおく ・ 全くノータッチの状態に参加するの悪い。合宿を引っ張っていくのも悪いので、盛り上ない時に独り言的発言
			掲示板	・ 掲示板があつたらこんなに便利というものを提案したかつた・関心があるわけではなかつた ・ 準備が必要で見た・自分から新しいものを作るという動機はない ・ 事務的連絡や何か伝えることがあつた時は、掲示板に参加 ・ 最初の頃掲示板の見方がわからなかつたので、何が行われたいるのか分からなかつた。見なくてもなんとかなる ・ 掲示板での議論でいやな思い出があるので中途半端な議論ならしたくない

感情	合宿	KKJ	場の雰囲気	・飲み屋での話を酒の力を借りずにあの人数でやったかんじ ・誕生会は結果的に大きいもの。悪い意味では、それをネタに作っていく。意義深いものにしましょう ・伝いたいと思えた環境 ・話してもいいんだよっていう場
学び	合宿	KKJ	目標	・一つの目標は無かった ・特に共通のテーマはなかった ・プログラムを作る過程が良かった。この作業が重要
			議論	・合宿の企画全体が核心に触れる部分で話していたので濃かった ・本当に話したいことが話せる ・議論はそれなりに盛り上がり、みんなが話し感動的な共感があったというよりは普通だった ・まじめな話。抽象的な話をした ・言いやすい場
			合宿	・合宿だけでもその後の交流の機会がなくなる ・合宿がメイン ・合宿のイメージが自分の中にできていた。最初は名刺交換から始まって、しゃべりづらいから小グループそしてチェンジして、最後は輪になってしめたい。枠を作る作業はしよう。みんなの意見をそこそこ入れたが、なかなかくずさなかった
			合宿と掲示板	・掲示板に関する話をしなかったが、関係させた方がよかったのでは ・掲示板だけだったら、参加不参加の差が大きい ・掲示板だけだったら強引な意見や調和を考えないなんでも言える。遠慮が無かったかも

感情	合宿	グループ 又は他者	京大	・誕生会をしてもらったことで、自分だけ目立っちゃって、他の少数派の人たちで話づらい人がいたのではないかな。 - 京大の人の誕生会をやらなくてよかったのか ・お互い深いところで話せた人がいた ・あまり感情をださないような人が、ある人の個人的な話を受けて、自分の弱い部分を表面に出せるのがよかった
			井下研	・個人に対しての仲間意識はあった。共通点を全体で感じた。SFCに仲間意識を感じたかというのと、外から見たという意味であったが、まとまっていなかった ・合宿などやろうと頑張っていた人は、責任感があった人たちで、何か係りなど仕事を持っていた ・合宿係がひっぱってくれた ・運営していく人に仲間意識があり、4年生として、合宿を通じてみんなに成長してもらいたいという思いが共通 ・あまり話さない人はどう思っているのか・同じテーマに分かれた仲間意識があったが、分かれたと同時に崩壊した ・掲示板のイメージで勝手な先入観にとらわれていた ・SFC対京大というのがあえていえばあったがそれを越えてひとつになっていた・違う環境で育った人たちだった
			全 体 又は 2校の比較	・合宿中はなかったが井下研には見えない壁があり、京大の人たちの方が親しみを覚えていた ・仲間意識は最初京大に入れてもらっているように感じていたが、だんだん全体で仲間意識 ・掲示板と違って相手の反応がわかるので安心できる ・名刺交換会の時はあまりなかったがグループに分かれて仲間意識があった ・（スタッフに）観察されている仲間意識があった ・ホームグラウンドが無かったので、慶応だから京大だからは無かった。慶応は、慶応らしさが出てなかった ・尊重できないんだけど、尊重しなければならない苦しさがお互いあった ・議論の場でみんなが素直になっていた。井下研でも本音で普段話すけど、自分の話すことを否定されることはない。京大の人が本気でつっこんでくれてうれしい研究会でやるのは無理 ・仲間意識は2日目ぐらいから ・仲間意識は意識したことはないが、別れてる感じはしなかった ・一部の人に仲間意識があるが全体にはない
学び	合宿	グループ 又は他者	京大	・WEBでのイメージと合宿でのイメージの違いは全くない ・京大の人のメタの視点。研究として見ていた話し合いには実際に参加せずに、話し合いの過程とか、発言をチェックしながら、その場というのが京大の人にどう影響を与えたのか
			全 体 又は 2校の比較	・議論の場話している人や聞いているが涙ぐんでいた。つっこむ人がいたので涙ぐんだのだろう ・議論をしているときまわりがうれしそうだった・内面と内面をぶつけ合うことができた人が思い入れがある ・SFCは理系でも文系でもないが、京大の人は哲学的に考える人は何を考えても、哲学的で理系の人は何でもグラフ。SFCは意見がえり好みされる。自分に何をもちたしてくるのか。能率主義的 ・弱い意見と強い意見があった。対立はしてないけど、もみ消された。ネットの時からそうだった。 ・議論のテーマを決めるときも強い意見が通った・掲示板に出なかった人が面白かった・意気込みがあった

感情	合宿	個人	話す	・関西弁につられた・SFCに人と話す方があの場では話づらい ・あの場で標準語を話すと嘘を言っているような気がする ・ぼけとつっこみのコミュニケーションに苦労した ・関西人と話すのに必死だった・言いたいことが言えた ・慶応と京大の違いについて話していたが一体感を感じた ・理路整然と話すグループにいたのでそれぞれで面白かったが、もっと深い話がしたい ・名刺交換会の時どういう言葉でしゃべるのか心配。少しテンションをあげた ・最後の一言で、めずらしく段取りをとって、考えてこれとこれと順番を考えて話した ・みんなに伝えたいけれど中途半端に理解して欲しくない。表現の仕方を迷っていた
			気持ち	・まだ研究会の人と仲良くなってない段階で京大の人も混じっておいつかなかった ・気持ち的にあつかった・最初の方はテンションが京大の人と違っていたが、最後は同じ ・最初に目的を持っていけたら、積極度は違っていた ・係りをしていたら、責任を果たすことになり、もう少し前に目標が見つかった。掲げられたのでなく納得いく目標で ・掲示板がなかったらもう少し打ち解けるのに時間がかかった ・私の人生の中で一番自分の心がどう動いているのか表現している時 ・本当に心と心の触れ合いを感じた ・「発言が苦手な人をそのまま殺すのではなく、皆が聞く努力をしなければ本当の話あいにならない」という意見を聞いて楽になった・なにしてるのかな私 ・掲示板に投稿を一度もしてないので疎外感・最初の頃は早く帰りたい。頑張っていてよかった ・引いて見ることができなくてショック ・実際動かすことで精一杯。表面的な反応と結果だけ注目して運営に追われてしまったかな。予想をたてて、そこで出た結果も範囲内であって、卒から出てない。発見や面白み、わくわくが無く安堵感 ・違いにこだわっていて、最後に出た意外と同じということを実感できなくて、悲しかった。残念だ分が言ったことは間違ってるとは思わないけど・プレッシャーに感じてる部分に触れられ、限界にきてしまった ・最後の一言で、感謝の気持ちとショックの気持ち。今まで、思ってきたことはそれがすべてだった。 - これからどうしよう ・皆についていけず冷静だった
			誕生会	・誕生会は異文化体験だった。京大のいきおいに飲まれていたが、こちらの意見も尊重された ・誕生会をしてもらって幸せいっぱい ・KKJの場で弱い意見と強い意見があったと思うが、誕生会の時一体感を得た ・誕生会をしてもらって、話せるようになった。その前にも、緊張しながらも発言することはあった
			合宿	・合宿で会って、掲示板でこうゆうことを言った人だというイメージは形成されていた ・合宿の時掲示板がないよりは親しみがわいた ・自分の発言が認められない不安 ・大勢の人の前で、話すのが苦手

学び	合宿	個人	議論	・あまり人と話した覚えがない ・関東と関西の違いについてよく話した ・お互い人生の価値観とか深い話を、一語一語言葉を選びながら考えながら話した ・議論としては、結論を出すものじゃなかった。他の人の意見が聞けてよかった ・議論としても発表としても楽しめた。自分が発言したことがきれいに通ったことがあった。京大は下から積み上げ、SFCは上から ・議論のテーマ自体何を話したいか決めて興味あるものを話せたので、後に残った ・必死に自分の中身を伝えようとした ・聞く態度を学んだ。答えを要求しないおしつけない ・京大の人に井下研を説明するのに、形式にこだわったり、伝える、わかりやすくをやたら重視しすぎた ・自分の考えとか内面とかの話ができなかった。就職活動でずっと言ってきたような話し方で奔走してた ・湧き出てくる感情がなかった。唯一の視点の違いにこだわってしまった ・言いたいことが言えた・もう少し話したいとかインパクトがあったとかがなかった ・あまり話さなかった。話すきっかけがなかった ・掲示板のあの人は誰かと結びつけちゃう。発言してない人とは1からの関係 ・ボディーワークで、天国に行き、体験型授業で議論したり、1回上がってみて上からみようよ ・よく生きるというテーマで、みんなの体験で話すから印象深い ・観察していた・KKJをなんでやるのか考えていた
			気付き (得たこと)	・SFCにいて当たり前と思っていたことが、当たり前でないことが分かった。それから気をつけてみると、そうだな ・生徒同士の見えない壁を取り除くためにも、京大の人の「笑いが必要」という話が印象に残った ・自分と違う相手が居ることを知った ・自分自身の心の成長と価値の広がりがあった ・慶応と京大と違うものがぶつかることで、気づきがあって、いいものが生まれるんだろうなっていう固定観念があって、結局最後まで、それを貫き、合宿はそれを補強 ・発言しないからだめなんだと思っていたので、京大の人の発言で、そういう考えもあるのか ・合宿で得たことは、人前で話すことが苦じゃなくなった ・何か形にしてやろう。そこから何か得てやろう ・視野が広がった ・自分たちを客観的に見ることができた ・あとで異文化は意識しなかった ・異文化交流がテーマ。京大と違いがあるのではと考えていて最後同じという言葉聞いてそうか。無理にでも探そうとしていた
			楽しさ	・マイナスからプラスにイメージがかわり掲示板とのイメージのギャップを楽しめた ・夜中寝ないで話した ・まとまりのない議論だったが楽しめた・議論で対立でき楽しめた

感情	掲示板 (合宿後)	KKJ	様子	・「合宿が楽しかったね」メールが盛り上がった ・合宿後話すことができたのがメリットだが、途絶えてしまった ・合宿の後の方が掲示板が暖かみをもってきた
			掲示板について	・相手について深める場 ・合宿が盛り上がったので掲示板だけだとつまらなかった
学び	掲示板 (合宿後)	KKJ	議論	・後で、合宿での議論の続きを深めようというものでもない
			掲示板について	・掲示板が確保されたことで一連の流れがあった ・もし掲示板が無かったら、個人的な交流になり、予想外の人とのアクシデント的反応が無い ・連絡を取れる場 ・掲示板だけなら噛み合わずにいくのだから。合宿があったからこそ、交差する。結局離れていくけど、交差することによって、微妙にづれる ・合宿後の期間が短かったのであまり、使われなかった

感情	掲示板 (合宿後)	グループ 又は他者	メリット	・掲示板なら話せるという人がいたのではと思う
学び	掲示板 (合宿後)	グループ 又は他者	メリット	・自分にはメリットはなかったが他の人には有用だった ・チャットができてお互いの交流が促進された
			メリット・デメリット	・掲示板が無かったら、交流が続く件数が減り、密度は濃かった

感情	掲示板 (合宿後)	個人	掲示板	・掲示板が無くても参加が少なかったので、合宿の前と後で掲示板の差がなかった
			交流	・参加している人を知って、その人とつながりたい。連絡をとりたい ・楽しかったねのメールが盛り上がったのは、くだらないけどうれしい。けれど、それだけで終わったのが残念 ・就職活動があり途中で帰ってしまったので変に口を挟めない共有している何かは大きい。2日目の夜が盛り上がりださう。ビデオをなどを見たら悲しくなる
学び	掲示板 (合宿後)	個人	交流	・合宿の前と後では掲示板の見る目的が変わった ・研究会の相談を京大の人にした ・合宿でよく話した人とは話す

学び	研究会	KKJ	KKJと研究会	・KKJと研究会は全く別物・研究会としてなんだったのかわからない ・研究会を変えた人のKKJの影響はない。知識とか確かなものを習得したかった人
			コミュニケーション	・京大の人は井下研のメーリングリストに感じるしり込みはない ・コミュニケーションを学んでいるという枠ができて、自然な話をしていない

感情	研究会	グループ 又は他者	影響	・研究会を移った人の理由はよくわからないけど、求めるものが違ったのかな。でも残念 ・みんなよかったと感じてることによって井下研の雰囲気もよくなった ・井下研だけならKKJのような話あいはいできない ・専門性とかを求めて研究会を変ったひとがいた ・コミットしてる人と迷っている人の差が激しい ・迷っちゃった人は研究会を出てしまった人もいたが、残って溶け込もうとしてる人もいる ・井下研としてのアイデンティティが難しくなる ・4年になるとよくわからないものでも腹をくくって参加 ・京大の人が個性が強かったのも、こちらががんばらねばという気にさせられた ・より多くの人と交流が持てたということは良かったけど、研究会同士の短い太いパイプがなかった ・3年生の間で信頼感がなかった ・もともと大変だったが京大を見た刺激があった。どうにかしなきゃ ・KKJに行ったから、結束力を固めるということはあまりない ・KKJ自体研究会に与えた影響はない ・KKJ後前からあった、井下研を変えようという動きが出た
学び	研究会	グループ 又は他者	気付き コミュニケーション	・他のグループと接触したことによって自分たちが同一カテゴリに属していることを認識させられたのではない ・共通テーマがない分コミュニケーション主体。しかし表面的すぎた

感情	研究会	個人	先生	・先生が何を考えていたのかわからなかったのは私も一緒だった ・先生と話す時間が欲しかった ・先生とのコミュニケーションが取れなかった
			研究会	・研究会とKKJは別のことをやっていて、自分のテーマが2転3転した ・研究会での仲間意識があったらKKJも変わってた ・研究会を変えようといっても具体的にはなく、不満ばかり言っていた ・合宿の場で研究会について話している人はいたが、興味はなかった。 - 研究会がこうあるべきと思う前に、単に自分が純粋にやりたいことを反映できればいい
学び	研究会	個人	研究会を移る	・他にやりたいことがあり、いいところを伸ばしたいので研究室を変えた。井下研で学べるものは今は欲しくないものがあつた・移った研究会は個人ベース ・KKJでの刺激もあるが、井下研究会に入る前から興味ある分野が他にもあり研究会に移った
			気付き	・京大と交流したことで、こちらの研究会のこともよりわかった ・普段友達とは話さないようなこと（教育）について気負いなく話し合え視野が広がった

感情	現在	KKJ	目的	・ある程度ガイドがあつて、目的を与えてもよかったのではないかな ・意味が後付け。目的があつて行ったんじゃなくて、とりあえずやってみて、目的を考える ・もっと目的を考える場があつてもいいんじゃないのか。目標を掲げられても納得はいかなかった
			運営	・来年経験者が交じることは、3年と4年の交流の場を作っておけば、漠然とした不安が聞けてアドバイスになり、いいと思う ・掲示板の最初からチャットなどリアルタイムで話す方が良かった ・みんないい印象は持っているけど、合宿で2泊3日すればできるのではないかな ・内面の話じゃなくても、この人と話せたということで価値を見出せたかも ・経験者と未経験者は交ぜない方がいい ・合宿を早い時期にやって、3年同士の交流の場にしてもいいかも
			その他の感情	・京大には始め対慶応というがあつたらしい。 ・現在参加しているプロジェクトで内面の話をし、みんなが理解でき、自分も言いたいことが言えた時、みんなはKKJってこういうものだったのかと思った・密な付き合いという感じがしない。それは距離の問題が大きい

感情	現在	グループ	気持ち	・スタッフの人に何かをしてあげたい
		又は他者	気付き	・最近になって、違いばかり言っていたけど、本当は一緒じゃないかということを思い出した
学び	現在	グループ 又は他者	気付き	・最後の言葉で、井下研は体験から、今後の行動の見本にすると書いていたができていいのか

感情	現在	個人	ビデオを見て	・最後の一言を見て、自分の意見が通っていい気になってる気がする ・最後の一言を見て、伝わらなかったかな。伝わった人には伝わったと思う。あの形で伝えたからインパクトがあった ・最後の一言を見て、日常生活では忘れちゃう。普段の生活で出そうと思わないまたビデオで見ると複雑 ・最後の一言を見て、違いにこだわっていた自分が恥ずかしい ・最後の一言を見て、最初から予想されたことを合宿の中で起きた出来事を使って、こう埋めあわせるだけで、予想されたとうり良かったね納得みたいな感じだったかな。この時うまくまとめようみたいな感じ。 - 自分の目的意識に落としたかった。発表の仕方も皆のお手本に ・最後の一言を見て、掲示板に書くのがめんどくさいというのを言っていなかったな。それを言いながら考えていたのに。これで全部じゃなかったんだけど、話がまとまっちゃった ・最後の一言を見て、なんでそこまで片意地を張ってしなきゃいけなかったんだろう。何をしてたんだろ ・最後の一言を見て、KKJに力を入れてなかったのに、もっともらしいことを言っているな
			KKJへの気持ち	・KKJが私個人を変えちゃうほど大きいものではない・もう一回やっても同じようには感じられない ・二人の精神が融合するような体験、幸福感、安心感はどこか今でも残っている ・短期留学の経験に似ている ・目標がわからなかったから話題にしたくない ・よく分からないけどやって良かった ・春の井下研だけの合宿をやって、秋の時期にKKJをやったら自分自身のコミットの仕方も変わった
			気付き	・自分のスタイルでやっていて多分衝撃を与えただろう。周りにあわせればよかった ・みんなが、KKJで感じたことを、(今自分が感じてみて)いいと思った
			その他の現在の気持ち	・合宿を途中で帰ることがなかったら、最初から飛ばさなかったかも。飛ばしたつもりもないが ・今なら研究会とKKJを関連づけることはできる・新しい研究会で、自分をいかせてる。満足 ・誕生会をしてもらったことは自慢・今思うと信じられない ・今は掲示板に抵抗感はない・機会があれば京大の人に会おうと思う ・誕生会はよかったが後になって考えるとちょっとやらしかったかな ・企画をしてくれた、スタッフに何かしてあげたい。みんなにとってもプラスになったと思うので
学び	現在	個人	気付き	・今考えると目的とかあったと思うけど、あの時期にやるのはどうかと思う。秋にやるなら就職活動を前に人と話すことで自分を知る。初めてあった時の印象しか知らない人と話して何が分かるのだろう。 - 今やるなら、私を知ってる人もいて、初めてあった人からの印象も分かる ・なぜ京都と慶応が集まって、わーあわーあやってなんだったのかと思う ・就職活動をして、自分の過去をプラスの方向から、ある意味偏った方向で話していたような気がする。 - いいと思っていることが壊されていい気付きだった
			現在の行動	・現在履修してる授業で、自分が引っ張っていくのではなく、運営とかしよこまず、いろいろな人に任せてみる。 - その人たちが成長するには自分はどうしたらいいのか ・組織系の授業を多く取っている。誰かが引っ張っていくのではなく、グループ全体でどうしたらいいのか ・新しい研究会で実際のことをやっている

感情	現在	KKJ全体	目的意識	・ 全力を捧げる。合宿キャンプに興味があった。・ KKJは春学期の軸 ・ 何かを決めなければならないという制約があり、振り回された ・ KKJを通してかやの外にいた感じ。それを最後まで通してしまった ・ つくりあげるといよりは、場を提供された ・ KKJに目的が持てなかった・ 春学期すべてKKJだったら、もっとわかった ・ 京大に行きたかったので、京大に興味があった ・ KKJは上から与えられたもの。場所とか日にちとか係りとか関与してない ・ 目標があって集まるんだったらいいけど、先に場が与えられてそこでやんなさいという感じでよくわからない ・ 終わった後意味付けはできるが、KKJ最中はなんだかわからない
			運営	・ スタッフにとっての目的はなんだったのか。京大の先生は最後「満足だった」と言っているが何に満足なのか ・ 先生は何を考えていたのか ・ 始めは自主参加だったからモチベーションが高くない・ いつのまにか強制参加になっていた ・ 実験台にされた ・ 絶対参加と任意参加が途中で変わったところで違和感があった ・ 最初のたちあげの段階から自分がやりたい。KKJどうしようか。場所どうしようか。合宿は就職活動のため参加しないつもりだったが、どうせ参加するなら打ち上げ花火
学び	現在	KKJ全体	KKJとは	・ やってよかったけど、言葉では言えない。大人になったかな ・ KKJをまとめると、「最初目立たなかったけど、誕生日だからといって意見が言えるようにしてくれてた。ありがたい場だった。」 ・ KKJをまとめると、「考え方を学ぶこととか感動とか公私の部分で話し合える企画」・ 大学のゼミと京大の人たちと合宿を通じて主にコミュニケーションについて実践的に学んだ ・ KKJは”あいのり”に似ている全く知らない人たちが、同じバスに乗ってどこかに向けて旅している目的自体もわからないけど、お互いのこと理解しようとしている。共同作業を通じて
			学んだこと	・ 学んだという意識はない ・ 責任者でもありつつ学生参加者でもある。運営の一部であるのも勉強になる。 ・ KKJは学んだというよりは心に残った。学ぼうとして学んだのではなく結果として残った ・ 目的が見えなかった ・ 京大と慶応の立場を同じにした方がいい ・ KKJをまとめると「京都大学とSFCの違いと共通点を語った合宿でいろいろな人と仲良くなれたことが一番」
			目的意識	・ 自分なりに価値を見出さなければいけないのだけど、見出せなかった。よくわからなかった。枠があった ・ KKJの共通のテーマは見えなかった ・ 上から与えられたものだった。舞台が用意されていた ・ 目的を与える。けれど下手に与えると自分が違いにこだわってしまったように、こだわってしまうかもしれない ・ 合宿自体の意味や目的を考えていた ・ 目標意識は、京大と慶応の違いを明確化し、自分を見つめたりとか、自分ってこうなんだよねって知る